

## 桑名市消防のあゆみ

明治 27 年 6 月 19 日	桑名町消防組は県令の組織認可を受け発足
昭和 12 年 4 月 1 日	市制施行により桑名市消防組を編成し、陣容は組頭以下 330 名で、これを 6 部に分け、消防ポンプ自動車 7 台、手曳ポンプ 1 台、蒸気ポンプ 1 台、腕用ポンプ 10 台を配備
昭和 14 年 4 月 1 日	消防組を警防団に改革し、1 団 7 分団にて定員 600 名に増員
昭和 16 年 11 月 15 日	季節常備を設置 (11 月 15 日～翌年 4 月 15 日) 部員 7 名が桑名警察署内ポンプ詰所で交代に服務
昭和 19 年 4 月 1 日	警防団季節常備部を警防団常備消防部とし、初代部長に平野義一が就任、部員は部長以下 11 名で消防ポンプ車 1 台を配備
11 月 20 日	手曳ガソリンポンプ 1 台、オートバイ 3 台、鉄兜等消防用機器を増強
昭和 21 年 10 月 31 日	昭和 20 年 7 月の戦災以来、元西桑名町役場に住いしていた常備消防部庁舎を市内末広町に新築、同年 11 月 1 日から新庁舎で業務を開始
昭和 22 年 9 月 16 日	常備消防部長の更迭をみた 警防団が廃止され、桑名市消防団を組織し、定員 330 名とした
昭和 23 年 3 月 7 日	法律第 226 号消防組織法の施行に伴い、警察から完全に独立し、消防は市町村の任務とされ、自治体消防が発足
昭和 24 年 10 月 1 日	桑名市消防本部を設置、初代消防長以下 16 名、装備は消防ポンプ自動車 (ダッチ) 1 台、単車 1 台で発足
昭和 25 年 9 月 1 日	消防本部定員を 25 名に増員し、消防ポンプ自動車「金竜号」を配備
昭和 27 年 3 月 7 日	桑名市防火協力会 (仮称) 創立総会 初代会長 昭和マシン(株) 岡 実氏就任
7 月 23 日	消防本部に水槽付消防ポンプ自動車・GMC「呑竜号」を配備
昭和 28 年 6 月 1 日	消防本部定員を 2 名増員、27 名とした
7 月 21 日	消防本部に小型動力ポンプ「日機号」を配備し、呑竜号に積載
昭和 30 年 5 月 1 日	二代目消防長が就任
昭和 31 年 1 月 10 日	消防本部に消防ポンプ自動車「銀竜号」を配備
1 月 14 日	消防本部の消防ポンプ自動車 (ダッチ) を消防団第 4 分団に配備
昭和 34 年 7 月 13 日	三代目消防長が就任 (専任となる)
9 月 30 日	桑名市消防署を設置
昭和 35 年 2 月 1 日	消防署に水槽付消防ポンプ自動車水Ⅱ型「天竜号」を配備
9 月 30 日	消防本部に指令車 (無線広報設備付) を配備
昭和 36 年 12 月 1 日	無線移動局車載型 1 機、携帯型 2 機を配備
昭和 37 年 9 月 1 日	桑名市防火協力会から単車 (メグロ) の寄贈を受け、本部連絡車として配備
昭和 38 年 1 月 16 日	消防署に消防ポンプ自動車 BD - I 型「赤竜号」を配備
3 月	消防署の消防ポンプ自動車「金竜号」を消防団第 13 分団に配備
11 月 1 日	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車 BS - I 型「保険号」の寄贈を受け、消防署に配備
12 月 1 日	消防署の消防ポンプ車 BS - I 型を消防団第 5 分団に配備

昭和 39 年 2 月 1 日	桑名ロータリークラブから救急自動車 2 B 型（トヨタ）の寄贈を受け、消防署に配備し、救急業務を開始
9 月 28 日	消防本部庁舎を桑名市中央町三丁目 35 番地に移転、鉄筋コンクリート 2 階建完成 建築面積 393.80 m <sup>2</sup> 延面積 803.02 m <sup>2</sup> 敷地面積 2,478.28 m <sup>2</sup> 望楼高さ 27.50m
昭和 41 年 8 月	桑名市防火協力会から単車（ホンダ）の寄贈を受け、本部連絡車として配備
昭和 42 年 8 月 22 日	消防本部に軽四輪車（マツダ）を本部連絡車として配備
9 月 1 日	超短波無線移動局 3 機、携帯無線機 2 機を配備
12 月 1 日	消防署の消防ポンプ自動車「銀竜号」を BD - I 型に更新し、旧車両を消防団第 3 分団に配備
昭和 43 年 4 月 16 日	西部方面の消防を強化するため、西分署を桑名市大字増田字馬淵 604 番地の 3 に開署、同日から分署長以下 11 名を配置、消防ポンプ自動車「銀竜号」、移動局 1 機、受令機 1 機の装備で業務を開始 建築面積 163.60 m <sup>2</sup> 延面積 295.60 m <sup>2</sup> 敷地面積 373.55 m <sup>2</sup> 望楼高さ 18.50m
7 月 1 日	消防副士長の階級が制度化され、同年 12 月 1 日に 1 名が昇任
7 月 10 日	長島町、木曾岬村と救急応援協定を締結
昭和 44 年 1 月 10 日	西分署に水槽付消防ポンプ自動車「金竜号」（水 I - A 型）を配備
1 月 16 日	桑名市防火協力会から単車（スズキ）の寄贈を受け、本部連絡車として配備
4 月 1 日	四代目消防長が就任
6 月 1 日	桑名市防火協力会から広報車（ニッサンスカイラインライトバン）の寄贈を受け、消防本部に配備
8 月 8 日	桑名市防火協力会から空気呼吸器（ライフゼム型）2 機の寄贈を受け、消防署で初めて採用
12 月 12 日	消防署に 24m 級はしご付ポンプ自動車「昇竜号」を配備し、高層建築物火災における消火活動及び人命救助等に備えた
昭和 45 年 4 月 1 日	多度町から消防事務の委託を受け消防業務を開始
6 月 18 日	消防署に救急自動車 2 B 型（トヨタ）を配備
8 月 31 日	消防職員待機宿舎（青志寮）を桑名市中央町 3 丁目に設置
11 月 26 日	多度町から消防ポンプ自動車「多度号」（BS - I 型）を譲渡された
12 月 18 日	水槽付消防ポンプ自動車「鯨山号」（水 I - A 型）を購入
12 月 23 日	多度分署庁舎を桑名郡多度町大字香取字蛭江 2199 番地の 29 に完成、同日から分署長以下 13 名を配置し、水槽付消防ポンプ自動車「鯨山号」、消防ポンプ自動車「多度号」、救急自動車（トヨタ）1 台、軽四輪車 1 台、小型動力ポンプ 1 台、超短波無線基地局 1 基、移動局 3 機、テレビ塔・監視装置 1 基の装備で業務を開始 建築面積 248.00 m <sup>2</sup> 延面積 455.00 m <sup>2</sup> 敷地面積 763.57 m <sup>2</sup> テレビ塔高 26.90m
昭和 46 年 3 月 15 日	消防署に化学消防ポンプ自動車「大竜号」（II 型）を配備
5 月 15 日	消防本部に小型乗用車（トヨタクラウン）を連絡車として配備
5 月 27 日	「桑名市防火協力会」を「桑名防火協会」と改称

昭和 46 年 7 月 2 日	消防署の消防ポンプ自動車「保険号」(B S - I 型)を消防団第 13 分団(安永)に 配備
10 月 11 日	多度分署に小型動力ポンプ付積載車(ミニユース)を配備し、同分署の軽四輪車(マ ツダ)を西分署へ配備
11 月 13 日	山之内製薬から救急自動車 3 B 型(ニッサンエコー)の寄贈を受け、消防署に配備
12 月 11 日	桑名防火協会から空気呼吸器一式、特殊録音装置一式の寄贈を受け、消防署に配備
12 月 26 日	消防署、西分署に昼夜切替式望楼テレビ 2 基を購入し、望楼勤務をテレビ監視に切 替えた
昭和 47 年 7 月 6 日	多度分署にジェットシューター(5 個)配備、山林火災における消火活動に備える
10 月 3 日	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車(B D - I 型)の寄贈を受け、消防団第 13 分団(安永)へ配備し、同分団車「保険号」を消防署に配備
11 月 9 日	桑名防火協会から空気呼吸器の寄贈を受け、消防署に配備
昭和 48 年 3 月 31 日	消防署の通信室増築完成
8 月 29 日	三重県共済農業協同組合連合会から救急自動車 2 B 型(ニッサンキャラバン)の寄 贈を受け消防署に配備
9 月 4 日	消防署に空気呼吸器一式を配備
11 月 15 日	消防署に救助訓練塔一式、超短波無線移動局 1 機、人工蘇生器を配備
12 月 6 日	桑名防火協会から高発泡 200 倍ノズル一式、救助工作用具一式、ミロク式ロープ発 射銃の寄贈を受け、消防署に配備
昭和 49 年 3 月 11 日	消防職員待機宿舎(青志寮)を桑名市新築町 67 番地の 1 に移転
9 月 6 日	消防署に高発泡機一式を配備
10 月 31 日	消防署に救難用ゴムボート(シックスマンボート B R - 104 型 6 人乗り)を配備
昭和 50 年 6 月 16 日	消防署に蘇生器(ミニットマン)を配備
10 月 22 日	高速自動車道東名阪国道の開通に伴い長島町、海部南部消防組合、四日市市、鈴鹿 市、亀山市と消防相互応援協定を締結
昭和 51 年 4 月 5 日	五代目消防長が就任
8 月 31 日	消防本部の指令車を更新
10 月 29 日	日本損害保険協会から救急自動車 2 B 型(ニッサンキャラバン)の寄贈を受け消防 署の救急自動車を更新
昭和 52 年 5 月 12 日	消防本部の連絡車を更新
7 月 12 日	消防署に蘇生器(ミニットマン)を配備
7 月 18 日	桑名防火協会からパワーテント(2 K × 3 K)一式の寄贈を受け、消防本部に配備
10 月 28 日	西分署の軽四輪車(マツダ)を廃車
昭和 53 年 4 月 1 日	市条例消防職員定数を 100 名に改正
5 月 30 日	消防本部に広報車(三菱ギャランライトバン)を配備し、同本部の広報車(ニッサ ンスカイラインバン)を西分署に連絡車として配備
11 月 25 日	消防署の水槽付消防ポンプ自動車「天竜号」を水 II 型に更新
12 月 22 日	消防署指揮旗並びに消防団指揮旗の制式及び使用内規を定めた
昭和 54 年 4 月 1 日	市条例消防職員定数を 104 名に改正
12 月 27 日	消防署の消防ポンプ自動車「赤竜号」を C D - II 型に更新

昭和 55 年 2 月 1 日	消防本部の組織機構を改正し、課制を導入、総務・消防・予防の 3 課 7 係制とした
4 月 1 日	市条例消防職員定数を 107 名に改正
6 月 1 日	消防署に空気呼吸器（ライフゼム 8 型）一式、マジックギブス一式、超短波無線移動局 2 機を配備
9 月 3 日	消防署に小型動力ポンプ付積載車（ニッサンホームー）を配備 多度分署に軽可搬式消防ポンプ（D-2 級ラビット P201 型）一式を配備
昭和 56 年 4 月 1 日	市条例消防職員定数を 114 名に改正
6 月 14 日	消防署の救急自動車 3 B 型（ニッサンエコー）を市民病院へ譲渡
7 月 1 日	消防署に空気呼吸器（陽式ライフゼム 8 型）を配備
昭和 57 年 2 月 1 日	消防本部に通信指令室を新築し、救急指令装置 B 型を配置 消防本部の組織機構を一部改正し 3 課 8 係制とし、一部事務分掌を改正
2 月 20 日	水槽付消防ポンプ自動車「雲竜号」（水 II 型）を購入
3 月 11 日	日本損害保険協会から救急自動車 2 B 型（トヨタハイエース）の寄贈を受けた
3 月 30 日	消防署に救急自動車 2 B 型（トヨタハイエース）を配備
3 月 31 日	多度分署の小型動力ポンプ付積載車を更新
4 月 1 日	大山田分署庁舎を桑名市大山田一丁目 7 番地の 1 に完成、同日から分署長以下 15 名を配置し、水槽付消防ポンプ自動車「雲竜号」、消防ポンプ自動車「保険号」、救急自動車 1 台、超短波無線移動局 4 機、空気呼吸器一式 2 機、ジェットシューター 2 個、非常用発電機（固定・移動）2 基の装備で業務を開始 建築面積 408.23 m <sup>2</sup> 延面積 533.35 m <sup>2</sup> 敷地面積 1,811.99 m <sup>2</sup>
	市条例消防職員定数を 117 名に改正
4 月 8 日	大山田分署開設に伴い、火災出動要綱及び救急出動要綱を作成施行
5 月 1 日	市消防救助隊設置処務要綱及び消防訓練安全管理基準を作成施行 救急自動車（トヨタ）を救助車に改造し運用開始
5 月 25 日	NTN 東洋ベアリング桑名工場からビデオ装置一式の寄贈を受け、消防本部に配備
5 月 30 日	消防無線運用管理規程を制定施行
7 月 1 日	桑名防火協会から和文型タイプライター（ニューライター）の寄贈を受け、消防本部に配備
7 月 24 日	西分署に超短波無線機携帯用 2 機を配備
12 月 21 日	西分署の消防ポンプ自動車「銀竜号」を CD-I 型に更新
昭和 58 年 4 月 1 日	市条例消防職員定数を 119 名に改正
4 月 8 日	第 6 回三重県消防職員意見発表会において優秀賞を受賞、同年 4 月 26 日東海支部消防職員意見発表会で最優秀賞を受賞し東海支部代表となり、同年 6 月 2 日第 6 回全国消防職員意見発表会で優秀賞を受賞
6 月 29 日	桑名防火協会から査察車（トヨタカローラバン）の寄贈を受け、消防本部に配備
11 月 14 日	日本損害保険協会から 16m 級屈折はしご付消防ポンプ自動車「火災保険号」の寄贈を受け、大山田分署に配備
11 月 28 日	消防署の水槽付消防ポンプ自動車「呑竜号」を水 II 型に更新
12 月 1 日	救急医療情報システム桑名地域救急医療情報センターとして業務を開始

昭和 59 年 2 月 18 日	三重県共済農業協同組合連合会から救急自動車 2 B 型（ニッサンキャラバン）の寄贈を受け消防署に配備し、同署の救急自動車（トヨタハイエース）と多度分署の救急自動車（ニッサンキャラバン）を入れ替えた
3 月 28 日	長島町と木曾岬村から消防事務委託を受け、規約を締結
4 月 1 日	市条例消防職員定数を 143 名に改正 桑名市火災予防条例を一部改正
8 月 23 日	日本消防協会から指揮車（ニッサンブルーバードバン）の寄贈を受け、消防本部に配備
9 月 7 日	山之内製薬から救急自動車 2 B 型（ニッサンキャラバン）の寄贈を受けた
10 月 1 日	消防本部に関する規則を一部改正し、署の庶務係・予防係を廃止
10 月 20 日	消防ポンプ自動車「揖斐号」（CD - I 型）を購入
10 月 22 日	小型動力ポンプ付積載車（ニッサンアトラス）を購入
10 月 27 日	長島町から水槽付消防ポンプ自動車「長良号」（水 I - A 型）を譲渡された
11 月 1 日	長島ライオンズクラブから長島木曾岬分署の広報連絡車（ニッサンスカイラインバン）の寄贈を受けた 長島木曾岬分署庁舎を桑名郡長島町大字松ヶ島 43 番地に完成、同日から分署長以下 24 名を配置し、水槽付消防ポンプ自動車「長良号」、消防ポンプ自動車「揖斐号」、救急自動車 2 B 型 1 台、小型動力ポンプ付積載車 1 台、広報連絡車 1 台、超短波無線基地局 1 基、移動局 5 機、テレビ塔・監視装置 1 基、非常用発電機（固定・移動）2 基、気象観測装置 1 基の装備で業務を開始 建築面積 518.96 m <sup>2</sup> 延面積 671.18 m <sup>2</sup> 敷地面積 1,725.00 m <sup>2</sup> テレビ塔高 30.00m
11 月 6 日	大山田分署に消防ポンプ自動車「星竜号」（CD - I 型）を配備し、同分署の消防ポンプ自動車「保険号」（BS - I 型）を消防署へ配備
11 月 27 日	消防署の消防ポンプ自動車「保険号」（BS - I 型）を廃車
昭和 60 年 2 月 8 日	消防本部通信指令室に基地局（CH2）を増設
3 月 1 日	消防署に高圧ガス製造所（空気充てん施設）を設置
3 月 6 日	消防本部及び消防団に消防庁長官から表彰旗を授与された
11 月 25 日	西分署の水槽付消防ポンプ自動車「金竜号」を水 I - A 型に更新 多度分署の消防ポンプ自動車「多度号」を CD - I 型に更新 長島木曾岬分署に 35m 級はしご付消防ポンプ自動車「木曾号」を配備
12 月 25 日	桑名市火災予防条例を一部改正
昭和 61 年 3 月 6 日	防災無線を設置し、運用を開始
3 月 28 日	東員町から消防事務委託を受け、規約を締結
4 月 1 日	市条例消防職員定数を 166 名に改正 消防本部の組織機構を一部改正し 3 課 7 係制とし、一部事務分掌を改正 桑名市消防衛生管理規程を制定施行 桑名市消防安全管理規程を制定施行
8 月 1 日	広報連絡車（三菱ジープ）を購入
8 月 19 日	日本消防協会から救急自動車 2 B 型（ニッサンキャラバン）の寄贈を受けた

昭和 61 年 8 月 25 日	桑名市消防衛生管理規程に伴い、毎月 15 日を消防衛生の日と定めた
10 月 21 日	水槽付消防ポンプ自動車「速風号」(水Ⅱ型)、消防ポンプ自動車「松風号」(CD - I 型) 小型動力ポンプ付積載車 (ニッサンアトラス) を購入
11 月 1 日	東員分署庁舎を員弁郡東員町大字六把野新田 86 番地の 1 に完成、同日から分署長以下 23 名を配置し、水槽付消防ポンプ自動車「速風号」、消防ポンプ自動車「松風号」、救急自動車 2 B 型 1 台、小型動力ポンプ付積載車 1 台、広報連絡車 1 台、超短波無線基地局 1 基、移動局 5 機、テレビ塔・監視装置 1 基、非常用発電機 (固定) 2 基、気象観測装置 1 基の装備で業務を開始 建築面積 632.487 m <sup>2</sup> 延面積 802.51 m <sup>2</sup> 敷地面積 2,707.870 m <sup>2</sup> テレビ塔高 30.00m
12 月 16 日	東員分署の開設に伴い、火災出動要綱及び救急出動要綱を一部改正 消防署の化学消防ポンプ自動車「大竜号」をⅣ型に更新 多度分署の水槽付消防ポンプ自動車「鯨山号」を水Ⅰ-A 型に更新
昭和 62 年 5 月 12 日	三重県危険物安全協会桑名支部設立 初代支部長 (株) ナヤデン 栗田伸太郎氏就任
6 月 2 日	六代目消防長が就任
8 月 24 日	消防訓を制定
9 月 18 日	海部南部消防本部と「119 番同時受信システムの運用に関する覚書及び協議書」を締結、施行
11 月 10 日	消防署に 2 台、大山田分署に 1 台小型動力ポンプを配備
12 月 16 日	消防署に救助工作車「飛竜号」(Ⅱ型) を配備し、救助車 (トヨタ) を廃車
12 月 24 日	海部南部消防組合消防本部と消防相互応援協定を締結 (施行は昭和 63 年 1 月 1 日から)
12 月 25 日	東員分署に化学消防ポンプ自動車「朝風号」(Ⅳ型) を配備
昭和 63 年 4 月 1 日	員弁地域救急医療情報センターの業務を開始
10 月 1 日	桑名市消防本部に関する規則の一部を改正
11 月 1 日	七代目消防長が就任
平成 元年 1 月 22 日	桑名ライオンズクラブから救急自動車 2 B 型 (トヨタハイエース) の寄贈を受け消防署の救急自動車を更新
3 月 31 日	三重県下消防相互応援協定を締結 (施行は 4 月 1 日から)
4 月 1 日	河川・流域総合情報システムを設置し、運用を開始
4 月 7 日	桑名市において第 12 回三重県消防職員意見発表会を開催 (桑名市中央公民館)
6 月 6 日	消防本部の広報車を更新
9 月 29 日	北勢町、員弁町、大安町、藤原町から消防事務委託を受け、規約を締結 市条例消防職員定数を 230 名に改正
10 月 1 日	八代目消防長が就任
10 月 20 日	員弁北分署に広報連絡車 (トヨタランドクルーザー) を配備
11 月 3 日	長島ライオンズクラブから煙体験ハウス一式、防火ビデオカセット一式、天ぷら火災実験装置一式の寄贈を受け、長島木曾岬分署へ配置
平成 2 年 1 月 31 日	市役所から小型乗用車 (トヨタクラウン) を譲渡され、消防本部の連絡車を更新

平成2年2月26日	日本自動車工業会から救急自動車2B型（トヨタハイエース）の寄贈を受け、大山田分署に配備し、同分署救急自動車（トヨタハイエース）を消防署に配備し、同署の予備車を廃車
7月1日	「三重県危険物安全協会桑名支部」を「桑名危険物安全協会」と改称
8月30日	消防署の指令車（三菱ジープ）を廃車
10月31日	員弁南分署の広報連絡車（ニッサンアベニールカーゴ）を配備
11月20日	消防署に小型動力ポンプ付水槽車（日野スーパードルフィン）を配備
11月30日	西分署の水槽付消防ポンプ自動車「金竜号」を大山田分署に配備し、同分署の水槽付消防ポンプ自動車「雲竜号」を消防署に配備
12月1日	桑名市農業協同組合から救急自動車2B型（ニッサンキャラバン）の寄贈を受け西分署に配備し、同分署を消防ポンプ自動車と救急自動車の2台体制とした
12月25日	消防署に現場指揮車（トヨタハイエース）を配備
平成3年1月30日	消防ポンプ自動車CD-I型（三菱キャンター）2台を購入
1月31日	日本損害保険協会から救急自動車2B型（ニッサンキャラバン）の寄贈を受けた救急自動車2B型（ニッサンキャラバン）を購入
2月1日	消防課から通信指令室を分離し、消防本部の組織機構を一部改正し3課1室8係制とし、一部事務分掌を改正 消防無線運用管理規程を全部改正
3月1日	員弁南分署庁舎を員弁郡大安町大字高柳418番地に完成、同日から分署長以下12名を配置し、消防ポンプ自動車CD-I型1台、救急自動車2B型1台、広報連絡車1台、超短波無線基地局1基、移動局3機、テレビ塔・監視装置1基、非常用発電機（固定）1基の装備で業務を開始 建築面積 699.702㎡ 延面積 908.007㎡ 敷地面積 3,535.480㎡ テレビ塔高 30.000m 員弁北分署庁舎を員弁郡北勢町大字瀬木50番地の10に完成、同日から分署長以下12名を配置し、消防ポンプ自動車CD-I型1台、救急自動車2B型1台、広報連絡車1台、超短波無線移動局3機、訓練塔1棟、非常用発電機（固定）1基、気象観測装置1基の装備で業務を開始 建築面積 699.702㎡ 延面積 908.007㎡ 敷地面積 3,080.000㎡ 訓練棟高 19.920m 員弁南分署、員弁北分署の開設に伴い、火災出動要綱及び救急出動要綱を一部改正 基地局（くわなしょうぼう、たどしょうぼう、ながしましょうぼう、とういんしょうぼう）を廃止し、新たに大山田分署に基地局（消防波・救急波）員弁南分署に前進基地局（消防波）を設置し、操作は消防本部通信指令室から遠隔で行う 救急指令装置Ⅱ型の一部を増設し、無線統制台を設置 四町受託に伴い桑名市、桑名郡及び員弁郡1市8町の119番を通信指令室にて一括受信となる
6月1日	九代目消防長が就任
8月14日	消防本部に予防広報車（トヨタマークⅡワゴン）を配備
12月12日	消防署の救急自動車2B型を更新
12月20日	多度分署の救急自動車2B型を更新

平成4年3月27日	桑名市において第43回三重県消防大会開催（桑名市民ホール）
8月21日	海津郡消防組合消防本部と海部西部消防組合消防本部とで「東海三県境地域消防相互応援協定」を締結（施行は9月1日から）
9月29日	長島木曾岬分署の救急自動車2B型を更新
10月1日	十代目消防長が就任
平成5年2月19日	員弁南分署、員弁北分署それぞれに水槽付消防ポンプ自動車水Ⅰ-A型（日野レンジャー）を配備
2月26日	消防署に小型動力ポンプ積載車（三菱キャンター）を配備
3月5日	大山田分署に県防災ヘリコプターとの通信確保に必要な携帯基地局を設置し、操作は消防本部通信指令室から遠隔で行う
4月1日	十一代目消防長が就任
10月14日	桑名市において第68回全国消防長会財政委員会開催（桑名シティホテル ～15日）
11月24日	消防本部・消防署庁舎が桑名市大字江場7番地に完成し、引渡しが行われた 桑名防火協会から新庁舎建設に伴い消火シミュレーション一式及び常夜灯の寄贈を受ける
12月6日	新庁舎で一部業務を開始（消防本部の総務課、消防課、予防課の3課のみ）
平成6年2月1日	消防本部・消防署の新庁舎への移転完了し、業務を開始 庁舎棟は鉄筋コンクリート造3階建（一部2階建）、他に車庫棟（鉄骨造2階建）、訓練棟（鉄筋コンクリート造4階建）を併設 建築面積 2,249.47㎡ 延床面積 5,129.07㎡ 敷地面積 7,896.53㎡ 訓練棟高 25.1m
2月14日	市内住宅密集地で発見された不発弾の処理のため、指揮本部を消防本部に設置
2月15日	桑名市消防職員待機宿舎（青志寮）を廃止、市役所へ移管
2月17日	四日市市、鈴鹿市、亀山市、及び長島町と「高速自動車道近畿自動車道名古屋・亀山線消防相互応援協定」を締結（施行は3月1日） これによって「高速道路における消防相互応援協定」を廃止
2月23日	桑名市消防本部・消防署新庁舎の竣工式を挙行
2月25日	員弁南分署に救助工作車Ⅱ型（日野レンジャー）、員弁北分署に小型動力ポンプ付水槽車Ⅱ型（日野スーパードルフィン）を配備
2月28日	日本損害保険協会から高規格救急自動車（日産パラメディック）の寄贈を受け、消防署の救急自動車を更新
8月1日	彦根市消防本部と「国道306号線消防相互応援協定」を締結、施行
8月26日	海部南部消防本部との「119番同時受信システムの運用に関する覚書及び協議書」を廃止
9月13日	24m級はしご付消防ポンプ自動車「昇竜号」を老朽化のため廃車
9月16日	東員分署の救急自動車2B型を更新
9月20日	東海三県広域災害総合訓練に参加（木曾三川公園にて）
10月1日	消防無線運用管理規程を一部改正
11月10日	桑名市において全国消防長会東海支部役員会開催（桑名シティホテル ～11日）



平成7年1月17日	午前5時46分、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）発生（M7.2の烈震）同日午後2時10分、被害のあった神戸市へ救助工作車にて応援出動（以後、応援出動回数6回を数える）
6月13日	桑名防火協会から査察車（トヨタカローラワゴン）の寄贈を受け、消防本部に配備
6月30日	全国の消防機関相互による迅速な援助を行うことを目的とし、緊急消防援助隊に協力する市町村の消防機関の代表によって発足式が行われ、同年9月5日に桑名市消防本部は、緊急援助隊の救急部隊として登録をした
7月18日	桑名市において、第19回三重県消防救助技術指導会開催（消防本部内）
10月1日	桑名市救急業務実施規程を制定施行
10月31日	市役所からマイクロバスを譲渡され、消防本部に配備
12月6日	多度分署の小型動力ポンプ付積載車を更新
12月25日	消防署に40m級はしご付消防ポンプ自動車を配備
平成8年1月1日	火災原因損害調査要綱を作成施行
2月29日	消防署の消防ポンプ自動車「赤竜号」をCD-I型に更新
3月22日	市役所から小型乗用自動車（トヨタクラウン）を譲渡され、消防本部連絡車として配備
4月1日	十二代目消防長が就任 防災無線（衛星可搬局）を設置
10月4日	消防署に資機材搬送車（トヨタライトエース）を配備
10月11日	長島木曾岬分署の指揮車を更新
11月7日	消防署、長島木曾岬分署の水槽付消防ポンプ自動車I-A型「桑名1」「長島1」を更新
平成9年1月29日	員弁南分署、員弁北分署に小型動力ポンプ積載車を配備
2月28日	大山田分署の水槽付消防ポンプ自動車I-A型を更新
4月1日	十三代目消防長が就任
7月14日	桑名防火協会からLED表示器（電光掲示看板）の寄贈を受ける
9月25日	消防署に車台付可搬式小型動力ポンプを配備
11月14日	消防署、長島木曾岬分署の消防ポンプ自動車CD-I型「桑名3」「長島2」を更新
平成10年1月20日	大山田分署の消防ポンプ自動車CD-I型「大山田2」を更新
2月20日	大山田分署の2B型救急自動車を災害対応特殊救急自動車（高規格救急車）に更新
2月26日	長島木曾岬分署の小型動力ポンプ付積載車「長島3」を更新
7月1日	桑名防火協会から屋外用天ぷら油火災実験装置（温度計付）の寄贈を受ける
9月1日	聴覚・音声言語機能障害者からの緊急通報専用ファクシミリ（24-4119）を設置し運用開始
9月3日	大山田分署に防災指導車（軽四）を配備
10月15日	ブロック別分散受信方式（四日市消防本部からの転送・伝達）による、移動体電話からの119番通報接続開始
平成11年2月10日	東員分署の水槽付消防ポンプ自動車I-A型「東員1」を更新
2月25日	多度分署の消防ポンプ自動車CD-I型「多度2」を更新
平成12年2月3日	東員分署の消防ポンプ自動車CD-I型「東員2」を更新

平成12年2月8日	西分署、多度分署の水槽付ポンプ自動車Ⅰ-A型「西1、多度1」を更新
3月31日	長島木曾岬分署に訓練棟2棟（A棟、B棟）が完成 訓練棟（A棟） 建築面積 22.275 m <sup>2</sup> 延床面積 72.803 m <sup>2</sup> 高さ 17.0m 訓練棟（B棟） 建築面積 33.150 m <sup>2</sup> 延床面積 93.520 m <sup>2</sup> 高さ 10.0m
4月1日	桑名市消防手数料条例を施行
4月4日	十四代目消防長が就任
6月30日	消防本部の広報車「桑名61」を更新
7月21日	消防本部に防災パトロール車「桑名53」を配備
8月24日	東員分署の可搬ポンプ積載車「東員3」をクレーン付積載車に更新
9月24日	県道桑名員弁線開通に伴い、桑名・員弁郡医師会、桑名警察署、三重県防災航空隊、桑名市消防団、消防本部合同による集団救急事故訓練を実施
平成13年2月14日	西分署、員弁南分署の2B型救急車「救急桑名2、救急員弁2」を高規格救急車に更新
2月21日	市民の安全を祈念し「21世紀記念植樹式」を行い枝垂れ桜・牡丹桜・緋寒桜を植樹
3月19日	東員分署に訓練棟が完成 建築面積 33.602 m <sup>2</sup> 延床面積 94.56 m <sup>2</sup> 高さ 11.7m
3月26日	消防本部に非常用発電機300KVA型を設置
4月1日	消防本部の組織機構を一部改正し3課1室9係制とし、一部事務分掌を改正
5月20日	水陸両用水難救助艇（ホバークラフトレスキュータイプ）の寄贈を受け、消防署に配備
8月22日	東員分署、員弁北分署の連絡車「東員51、員弁北51」をワンボックスタイプの指揮車に更新
12月19日	桑名市火災予防条例を一部改正
平成14年2月1日	消防署、員弁北分署の2B型救急車「救急桑名5・救急員弁3」を高規格救急車に更新
2月28日	消防署に訓練棟（副棟）完成
3月1日	桑名市消防通信規程を制定施行し消防無線運用管理規程を廃止 桑名市消防通信運用要綱を作成施行
3月5日	消防署の救助工作車Ⅱ型「桑名41」を更新
3月7日	近畿自動車道名古屋神戸線川越インターまで開通に伴い四日市市消防本部、海部南部消防組合消防本部、名古屋市消防局、三重県警察、愛知県警察、三重県・愛知県・岐阜県の各防災航空隊、日本道路公団中部支社と合同訓練を実施
3月13日	海部南部消防組合消防本部、四日市市消防本部と「近畿自動車道名古屋神戸線消防相互応援協定」を締結、施行
3月25日	桑名市デジタル地域防災無線の運用開始
3月28日	分署に不在時緊急通報電話（通信指令室に直通）を設置し運用開始
8月1日	消防本部の予防広報車「桑名63」を低公害車（トヨタハイブリッドカーエスティマ）に更新 員弁南分署の連絡車「員弁南51」を更新、指揮車とする

平成 14 年 9 月 1 日	<p>桑名市消防職員服務規程を制定施行</p> <p>桑名市警防規程を制定施行</p> <p>桑名市救助規程を制定施行し桑名市消防救助隊設置処務要綱を廃止</p> <p>桑名市警防規程運用要綱を作成施行</p> <p>桑名市火災等出場要綱を作成施行し火災出動要綱を廃止</p> <p>桑名市消防の監査に関する要綱を作成施行</p>
平成 15 年 1 月 1 日	桑名市再出火防止要綱を作成施行
1 月	桑名市し尿処理場の拡張工事に伴い伐採される予定であった記念植樹の桜の木 11 本を、保存したいという同施設職員の意向を汲み、消防署が庁舎東側歩道（消防署管理）に譲り受け、消防職員約 70 名が休日・非番を利用し移植した(22 日～26 日)
2 月 20 日	消防署、多度分署の 2 B 型救急車「救急桑名 4、救急多度 1」を高規格救急車に更新
3 月	消防署、長島木曾岬分署、東員分署、員弁北分署に救急消毒室を設置
3 月 11 日	高速自動車国道近畿自動車道名古屋・関線及び名古屋・神戸線における川越ジャンクション開通に伴い、4 市 4 町（四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、長島町、木曾岬町、朝日町、川越町）と消防相互応援協定を締結した
3 月 26 日	清掃センター桜並木移植記念の木柱を設置、記念式典を行った
4 月 1 日	<p>桑名市火災調査要綱を制定施行し火災原因損害調査要綱を廃止</p> <p>桑名市救急業務規程を制定施行し桑名市救急業務実施規程を廃止</p>
7 月 1 日	桑名市救急業務規程を一部改正
8 月	多度町力尾地内の三重ごみ固形燃料発電所 RDF 貯蔵槽において 8 月 14 日爆風により施設作業員 4 名が負傷、更に 8 月 19 日この火災の消火作業中に突然貯蔵槽が爆発し作業に従事していた消防職員 2 名が殉職、ほか施設作業員 1 名が負傷した
9 月 1 日	桑名市消防安全管理規程に基づき、毎月 19 日を消防安全の日と定めた
11 月 1 日	<p>桑名市消防署で指揮隊の運用を開始</p> <p>桑名市警防規程を一部改正</p>
12 月 1 日	北勢町、員弁町、大安町及び藤原町の合併による「いなべ市」の設置に伴い受託形態がいなべ市、多度町、長島町、木曾岬町、東員町の 1 市 4 町受託へ移行した
12 月 17 日	大山田分署の屈折はしご付消防ポンプ自動車「大山田 31」を 15m 級シグマ型（三重県下初）に更新
平成 16 年 2 月 5 日	長島木曾岬分署の 2 B 型救急車「救急長島 1」を高規格救急車に更新
2 月 6 日	員弁北分署の消防ポンプ自動車 CD - I 型「員弁北 2」を更新
4 月 1 日	消防本部内に桑名市防災指導センターを開設し、これまで学校区単位で実施してきた自主防災訓練や、自治会単位での防火、防災、救急等の訓練を、防災指導員が統合的に指導にあたる体制とした
8 月 6 日	平成 15 年 8 月 19 日三重ごみ固形燃料発電所 RDF 貯蔵槽の爆発事故により殉職した 2 名の勇敢な活動を讃え、平成 16 年 8 月 6 日、桑名市コミュニティプラザ文化ホールにおいて桑名市消防葬を挙行、消防関係者及び国・県・市・町の関係機関の公職者等並びに管内市町民の総勢約 700 人の参列により、無宗教にて執り行った

平成 16 年 8 月 11 日	平成 15 年 8 月 19 日 三重ごみ固形燃料発電所 RDF 貯蔵槽の爆発事故により殉職した 2 名の勇敢な活動を讃えご冥福を祈り、桑名市消防本部正面玄関に顕彰碑を建立、除幕式を行った
12 月 6 日	桑名市・多度町・長島町の 1 市 2 町の合併による「桑名市」の設置により、いなべ市・木曾岬町・東員町の 1 市 2 町を受託する形態となった 市条例消防職員定数を 236 名に改正 桑名市火災予防査察規程を制定施行
12 月 9 日	員弁南分署の消防ポンプ自動車 CD - I 型「員弁南 2」を更新
12 月 27 日	三重県遊技業協同組合桑名支部から防災指導センター指導車（トヨタハイエースバン）の寄贈を受け、防災指導センターに配備
平成 17 年 3 月 3 日	東員分署の 2 B 型救急車「救急員弁 1」を高規格救急車に更新、これにより、桑名消防保有の救急自動車 10 台すべてが高規格救急自動車となり救急の高度化体制が整い、医師の包括的な指示のもと救急救命士が傷病者に対し高度な救命処置と搬送が可能となった
3 月 30 日	消防署の化学消防ポンプ自動車 IV 型「桑名 4」を更新
4 月 1 日	十五代目消防長が就任
10 月 21 日	長島木曾岬分署のはしご付消防ポンプ自動車「長島 31」を、三重県下初の先端屈折・水路管装備、30m 級はしご付消防自動車に更新
12 月 1 日	消防署の現場指揮車「桑名 51」を更新
平成 18 年 3 月 24 日	員弁南分署に訓練塔が完成、1 階に救急消毒室、および壁面には消防訓練施設としては三重県下初のクライミングウォールを設置 建築面積 47.67 m <sup>2</sup> 延床面積 110.70 m <sup>2</sup> 高さ 10.75m
4 月 1 日	桑名市大字増田にあった西分署を大字赤尾 2107 番地 2 に移転、同日から分署長以下 15 名を配置し、水槽付消防ポンプ自動車 1 台、消防ポンプ自動車 CD - I 型 1 台、高規格救急自動車 1 台、防災指導車 1 台、自家発電設備、太陽電池発電所、ポンプ操法訓練場、放水壁、雨水利用防火水槽、自家給油所の装備で業務を開始 建築面積 1,104.98 m <sup>2</sup> 延面積 1,389.19 m <sup>2</sup> 敷地面積 4,000.02 m <sup>2</sup> 訓練棟高 13.83m
8 月 24 日	第 35 回全国消防救助技術大会（札幌市）に「ロープブリッジ渡過」が三重県代表として出場
11 月 27 日	大山田分署の高規格救急車「救急桑名 3」を更新
12 月 5 日	消防署の小型動力ポンプ付水槽車 II 型「桑名 5」を更新
平成 19 年 4 月 1 日	十六代目消防長が就任 消防本部の組織機構を一部改正し予防課火災調査係を廃止 消防署の組織に指揮情報係を新設 消防指令センターを四日市市消防本部と共同で桑名市消防本部庁舎内に整備し、3 部制で業務を開始
8 月 10 日	消防本部の訓練指導車を更新
12 月 1 日	東員分署の化学消防ポンプ自動車 II 型「東員 4」を更新

平成 20 年 1 月 7 日	員弁南分署の水槽付消防ポンプ自動車 I - A 型「員弁南 1」を更新
1 月 16 日	消防署に消防ポンプ自動車 CD - I 型「桑名 3」を配備
2 月 1 日	消防署の高規格救急車「救急桑名 1」を更新
4 月 1 日	市条例消防職員定数を 246 名に改正 桑名市多度町香取にあった多度分署を多度町小山 1243 番地に移転、同日から分署長以下 13 名を配置し、水槽付消防ポンプ自動車 1 台、消防ポンプ自動車 CD - I 型 1 台、可搬ポンプ積載車 1 台、高規格救急自動車 1 台、防災指導車 1 台、自家発電設備、太陽電池発電所、雨水利用防火水槽、自家給油所の装備で業務を開始 建築面積 1,099.45 m <sup>2</sup> 延面積 1,334.14 m <sup>2</sup> 敷地面積 3,913.69 m <sup>2</sup> 訓練塔高 12.00m
4 月 17 日	桑名防火協会から査察車（トヨタサクシード）の寄贈を受け、消防本部に配備
8 月 19 日	新型防火衣を全職員に配備
平成 21 年 2 月 9 日	員弁北分署の水槽付消防ポンプ自動車 I - A 型「員弁北 1」を更新
2 月 10 日	消防署の積載車「桑名 6」を更新
9 月 1 日	全国瞬時警報システム（J-ALERT）を消防署に整備
平成 22 年 2 月 5 日	西分署、員弁南分署の高規格救急車「救急桑名 2、救急員弁 2」を更新
8 月 27 日	第 39 回全国消防救助大会（京都市）に「ほふく救出」が三重県代表として出場
平成 23 年 3 月 11 日	午後 2 時 46 分、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生 3 月 11 日から 3 月 21 日の間、緊急消防援助隊（3 隊延べ 15 名）を千葉県市原市及び宮城県仙台市若林区に派遣
3 月 26 日	石榑トンネル開通に伴い、東近江行政組合、いなべ市と消防相互応援協定を締結
3 月 28 日	員弁南分署を増改築
3 月 31 日	員弁南分署に支援車 II 型「員弁南 51」を配備
4 月 1 日	十七代目消防長が就任 消防本部の組織機構を一部改正し通信指令室、防災指導センターを課に改めた 消防署の組織機構を一部改正し指揮体制を桑名方面と員弁方面に分け、各方面に方面隊長を配置。消防署の体制を 2 係制から 3 係制に変更
11 月 9 日	東日本大震災に際し、緊急消防援助隊を出場させたことにより、「消防職団員への感謝の集い」に係る総務大臣表彰を受ける
平成 24 年 2 月 25 日	消防本部に新型車両（多目的緊急自動車）配備
8 月 7 日	第 41 回全国消防救助大会（東京都）に「はしご登はん」「ロープ応用登はん」が三重県代表として出場
平成 25 年 1 月 29 日	西分署、多度分署の水槽付消防ポンプ自動車 I - A 型（桑名西 1、多度 1）を消防ポンプ自動車 CD - I 型（小型水槽 CAFS 付）に更新 消防署の高規格救急車「救急桑名 4」を更新
2 月 14 日	「資機材搬送車」の無償使用を開始（総務省消防庁）
8 月 22 日	第 42 回全国消防救助大会（広島県）に「ほふく救出」「はしご登はん」「ロープ応用登はん」が三重県代表として出場
12 月 3 日	員弁南分署の救助工作車 II 型「員弁南 41」を更新
12 月 4 日	員弁北分署の高規格救急車「救急員弁 3」を更新

平成 26 年 1 月 15 日	消防署の高規格救急車「救急桑名 5」を更新
2 月 7 日	消防署、長島木曾岬分署の消防ポンプ自動車 CD - I 型（桑名 2、長島 2）を消防ポンプ自動車 CD - I 型（小型水槽 CAFS 付）に更新
4 月 1 日	十八代目消防長が就任
8 月 27 日	「ロープブリッジ渡過」「ロープ応用登はん」「溺者搬送」の各種目において第 43 回全国消防救助大会東海地区代表に決定したが、広島市で発生した大雨に起因する土砂災害により全国大会は中止となる
平成 27 年 1 月 16 日	長島木曾岬分署、東員分署の高規格救急車「救急長島 1、救急員弁 1」を更新
4 月 1 日	市条例消防職員定数を 252 名に改正 消防本部の組織機構を一部改正し、消防課を消防救急課、消防係を消防救助係、救急係を救急管理係、指導係を普及啓発係に改め、予防課に指導係を加えた
8 月 3 日	消防本部に連絡車（ダイハツミライース）を配備
8 月 29 日	第 44 回全国消防救助大会（兵庫県）に「ロープ応用登はん」が三重県代表として出場
平成 28 年 2 月 16 日	大山田分署、多度分署の高規格救急車「救急桑名 3、救急多度 1」を更新
4 月 1 日	十九代目消防長が就任 消防本部、消防署の組織改編に伴い、指揮調査課を新設し、員弁南分署をいなべ消防署、東員分署を東員消防署とした。消防署の勤務体制を 3 係制から 2 係制に変更 消防救急デジタル無線への移行に伴い、四日市市消防本部及び菟野町消防本部と共同で四日市市中消防署中央分署内で「三重北消防指令センター」として運用開始
8 月 24 日	第 45 回全国消防救助大会（愛媛県）に「ロープ応用登はん」が三重県代表として出場
平成 29 年 1 月 11 日	いなべ消防署北分署の小型動力ポンプ積載車「いなべ北 71」を更新
4 月 1 日	防災指導課が市長直轄組織防災・危機管理課へ統合
8 月 23 日	第 46 回全国消防救助大会（宮城県）に「ほふく救出」が三重県代表として出場
平成 30 年 1 月 24 日	桑名市消防署の高規格救急車「救急桑名 1」を更新
7 月 12 日	7 月 12 日から 7 月 18 日の間、平成 30 年 7 月豪雨に伴い、緊急消防援助隊（2 隊延べ 12 名）を広島県熊野町川角地区に派遣
8 月 15 日	いなべ消防署の高規格救急車「救急いなべ 1」を更新
10 月 15 日	救急ワークステーションの運用開始
11 月 7 日	いなべ消防署の小型動力ポンプ積載車「いなべ 71」を更新
平成 31 年 1 月 10 日	桑名市消防署の水槽付消防ポンプ自動車 I - A 型「桑名 1」を更新
1 月 16 日	東員消防署の消防ポンプ自動車 CD - I 型「東員 2」を更新
4 月 1 日	二十代目消防長が就任
令和元年 6 月 3 日	消防本部の広報車「桑名 61」を連絡車（ダイハツムーヴ）に更新
9 月 26 日	いなべ消防署北分署の災害対応車「いなべ北 52」を更新 東員消防署の災害対応車「東員 52」を更新
10 月 1 日	Net119 緊急通報システムの運用開始
令和 2 年 2 月 14 日	桑名市消防署西分署の高規格救急車「救急桑名西 1」を更新
3 月 5 日	東員消防署のクレーン付資機材搬送車「東員 71」を更新
3 月 13 日	「高機能救命ボート」の無償使用を開始（総務省消防庁）

令和2年12月18日	東員消防署の水槽付消防ポンプ自動車Ⅰ-A型「東員1」を更新
令和3年1月10日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、桑名市消防出初式を中止
3月9日	桑名市消防署大山田分署の屈折梯子付消防ポンプ自動車「大山田31」を更新
3月15日	桑名市消防署の救助工作車Ⅲ型「桑名41」を更新
7月20日	119番映像通報システムの運用開始
11月29日	桑名市消防署長島木曾岬分署の水槽付消防ポンプ車「長島1」を更新
令和4年2月14日	いなべ消防署北分署の小型動力ポンプ付水槽車「いなべ北5」を更新
3月1日	いなべ消防署北分署の消防ポンプ自動車「いなべ北2」を更新
5月18日	桑名防火協会から火災予防啓発車（ニッサンセレナ）の寄贈を受け、消防本部に配備
10月27日	「桑名消防ドローン隊」発足（隊員6名）
令和5年1月5日	桑名市消防署の高規格救急車「救急桑名2」を更新
2月21日	いなべ消防署の消防ポンプ自動車CD-I型「いなべ2」を更新
3月22日	桑名市消防署の資機材搬送車「桑名72」を更新
3月23日	桑名市消防署長島木曾岬分署の梯子付消防自動車「長島31」を更新